

三島駅南口

## 地下水対策で初会合

### ホテル建設、地下室なし

JR三島駅南口再開発に伴う三島市の「地下水対策検討委員会」の初会合が23日、同市役所で開かれた。

2020年4月のホテル開業に向け、地下水への影響について議論を重ね、三島の誇る湧水と地下水の保全につなげる。

委員は湧水の保全に取り組む市民団体「三島ゆうすい会」や環境審議会の代表など8人で、筑波大の辻村真貴教授(水文学)が委員長を務める。南口の「西街区」に開業予定のホテルは、東京急行電鉄と東急ホテルズが共同提案した。

この日の委員会では、建設予定地の地下水は推定で深さ14層を流れているとされた。ホテルには地下室を作らず、建物の下にコンクリートを敷く「直接基礎」

を採用。掘削の深さは3・5層とし、地下水と基礎の間に10層を確保することが報告された。

また、地下水位の観測はホテルの事業者と市が継続していくことを確認した。南口の再開発は「東街区」も控えているが、具体的な事業は未定で、決まりしだい、再度、地下水への影響について検討を進めるとい